



## Disintegrating Families and donor conception

### 崩壊した家族と donor conception

#### Interviewee

Ms. Faith Sullivan

#### Q. 自己紹介を簡単にお願いいたします。

現在 30 歳で、米国コロラド州のコロラドスプリングスに住んでいる。生まれてからずっとここに住んでいる。結婚していて、子供はいないが、ペットをたくさん飼っている。データアナリストとして働いている。

#### Q. いつ、どのようにして知りましたか？ 知った時どのように思いましたか？

10 歳の時に提供精子で生まれたことを告げられたが、まともではない状況のもとで言われた。社会的父親のことを「出生証明書に書かれている男性」と呼んでいる。この男性は、自分が生まれたときの母親のパートナーだった。彼は、自分がドナー出生者であることを知る少し前に、児童虐待（自分も被害者だ）で逮捕されている。その後、母に旅芸人として働いている新しいボーイフレンドができ、その男性と一緒に旅をしているときに母から聞かされた。母は、新しいボーイフレンドに頼まれて告げたのだろうと自分と弟は考えている。もし、状況が違えば、母はそうしなかったかもしれない。

知らされたとき、呆然とした。そのときまで、母は数ヶ月かけて、出生証明書に書かれた男を悪者に仕立て上げてい

た。その頃、彼が自分たちの生活に戻ってくるのか来ないのか、まだはっきりしていなかったのが、彼に対して精神的に距離を置くための手段だったのかもしれない。

すでに旅に出ていることで生活が流動的になっていたので、ドナー出生者であると言われたことは、その出来事のひとつに過ぎなかった。当時はたいしたことではないと思っていた。

#### Q. その事実によどのように適応してきましたか？ それ以降、考え方は変化してきましたか？

DC に対する考え方は、成長するにつれて確実に変化している。自分が幼い頃、既に家庭が崩壊していたので、当時はその知識をどう活かしていいのかわからなかった。その後、自分自身をもっと商品として見るようになった。母の子育てのほとんどは、所有権に近いもので、人形のような子供に自分を投影したいという彼女の願望を反映したものだ。

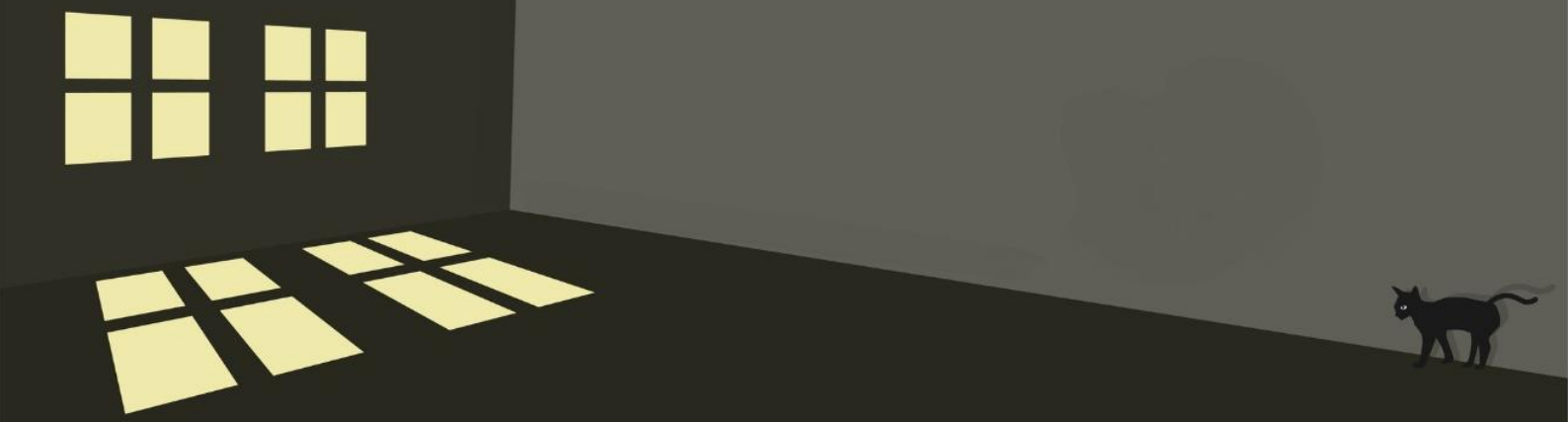
この状況にほぼ適応しているが、時々再燃する。最近、ドナー側の家族を探しに行ったのだが、それで多少症状が悪化してしまった。

同じドナーから生まれた弟がいる。弟と一緒にユーモアのセンスを保とうとしている。

#### Q. その事実を知った後、家族との関係は変わりましたか？

ドナー出生者であることがわかったことで、自分と弟は「母の子」（＝母親だけの子）になった。他に保護してくれる大人がいなかったのが、まるで母の所有物であるかのように感じた。

母は、自分と弟に対する自分の権利を守るため、クレームに対して防衛的だっ



た。母は、家族のメンバーが子育てを批判すると、家から閉め出すこともあった。そのため、拡大家族との間にかなりの緊張関係が生まれた。母の気まぐれで、多くの大人が自分たちの生活から姿を消した。

**Q. もし、小さい頃からドナーから生まれたことを教えてもらえたなら、その事実によく適応していたと思いますか？**

もっと幼い頃に教えてもらっていたら、と思っている。もし、出生証明書に書かれている男性が実の父親でないと知っていたら、彼が自分にした痴漢行為に対して、まったく違った反応をしていたかもしれない。自分が誰かに話す前に、痴漢行為は5年間も続いていた。ドナー出生のことを知っていれば、もっと早く何か言っていたかもしれない。母も、最初から正直に話してくれていれば、娘から違った扱いを受けていたかもしれない。もっと早く情報をもらっていたら、事態はどう変わっていたらと思う。

自分が知っている、ほかのドナーきょうだいは長い間お互いを知っているので、共通の体験があり、複雑な感情を緩和するのに役立っているようだ。しかし、自分の場合はそうではない。もっと早く知っていれば、母が10年間も嘘をついていた、裏切られたという感覚をもつことはなかったかもしれないと考えている。

**Q. 小さい頃、家族の中で、父親に似ている、母親に似ているなどと、話をした記憶はありますか？**

そのことを何度か口にしたのを覚えている。しかし母は当時すでに40歳、出生証明書に書かれている男性は60代だった

ため、まだ幼い自分にとって、親と似た共通の特徴を指摘するのが難しかった。

母は、ヒスパニック系の家系であるにもかかわらず、ブロンドのドナーを選んだ。自分が家族の誰かに似ていると感じたことはなかったが、子供のころはそのことに疑問を持つことはなかった。

**Q. 育ての父親はどんな人でしたか？ どんな思い出がありますか？ どんな感情を持っていますか？**

子供の頃は、出生証明書に書かれている男性にとっても愛着があった。それは、母に対するよりも深く、母はそれに憤慨しているようだった。彼は定年退職して家にいたので、自分たちは強い絆で結ばれていた。彼がいなくなる直前まで、彼にとっても愛着を持っていたのを思い出す。児童虐待の影響もある。

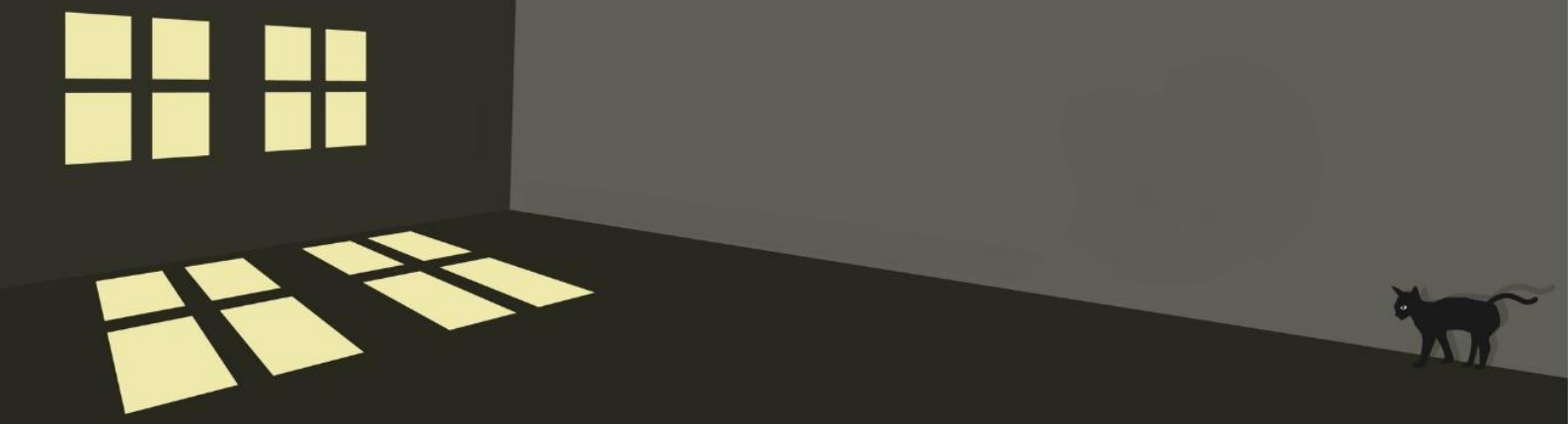
彼が去ってから、少なくとも1年くらい経つまで、彼が自分たちの生活に戻ってこないということを知らなかった。その時点で、母は家族の写真から彼を消し、もう彼に執着してはいけないことを学んだ。

数年後、自分の出生証明書に書かれている男性が亡くなったことを知った。母は娘がまだ彼に愛着があることを知り、悲しくなり傷ついた。

**Q. Sullivan さんにとって、ドナーはどんな存在ですか？ もし会ったら、何を言いたいですか？ どんな話をしたいですか？**

ドナーのアイデンティティを知ったのは、DCに対する考えをYouTubeに公開した直後のことだった。

子供時代、（まるで、自分自身が母親の新しい夫であるかのように）母ばかりに気を取られて「父親の形をした空白」があるように感じたことはなかった。ド



ナーの正体を知ったときは、ちょっと物足りなかった。自分には15人のドナーきょうだいがいる。Facebookにはすでにドナーとドナーきょうだいのためのグループがあり、それに参加した。そこに投稿をしたが、他の人たちにとってはすでに「終わったこと」であるかのようで、そこに親族のような関係や、彼らとの関わりを感じることはなく、彼らについて知ることは何の満足にもならなかった。自分は、結局、得ることが不可能な承認を求めているのだ。

ドナーに直接に会っていない。彼はそのことにあまり興味がないようで、彼のソーシャルアカウントは、知らない人からの接触を防ぐためにロックされている。自分は、彼のプライバシーを尊重したいと考えている。

#### Q. ドナーを探そうとしましたか？ その時のことを詳しく教えてください。

We are Donor Conceived というフェイスブックグループに参加した。そこで、ドナーきょうだい登録のことを知った。参加するには有料だったが、グループの中のととても親切な人が、自分のメンバーシップを使って自分の家族を調査してくれると言ってくれ、その結果、ドナーきょうだいを見つけることができた。LinkedInでその人にメッセージを送り、彼女は自分をフェイスブックグループに加えてくれた。

弟が受けた Ancestry.com の検査で、ドナーがどういう人かを初めて知った。

#### Q. 自分が donor conceived であることについて、どんな時に思い出しますか？

その時の状況による。例えば、クライオバンクの広告を見たとき、他の人が自分の子供を、母が自分にしたのと同じ状

況に追い込んでいるのを知って、思わず涙ぐんでしまう。

この時点で、自分の家族は多くの点で崩壊しており、DCは崩壊の一つでしかないと考えている。それは、軽度の失望が絶え間なくつづいている感じだ。他の経験で感覚が麻痺しているため、痛みはない。

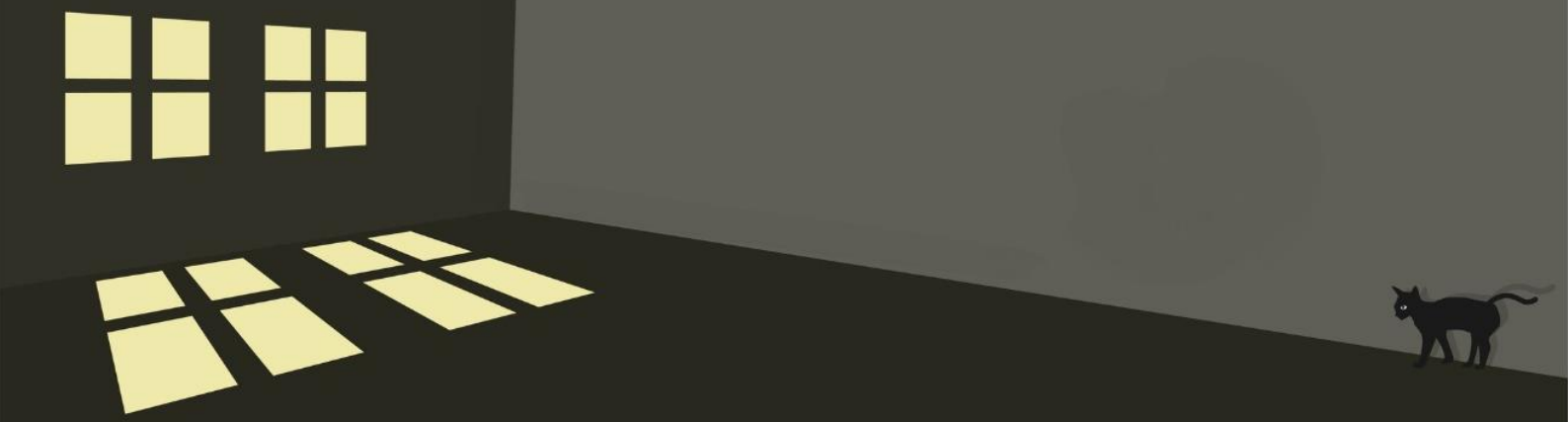
夫の両親は、生物学的に完全な家族を持っており、外部から見るとよさそうにみえ、羨ましく感じている。

#### Q. 育ての父親、遺伝的父親、それぞれどのような存在ですか？

ドナーとつながりを持ちたいと願っていた。しかし、母から渡されたドナーのプロフィールに「ユーモアのセンスがある」と書かれていたことが、自分にとって難しかった。フェイスブックのドナーきょうだいグループの投稿で、自分もユーモアのセンスがあることをほめかけたが、それは聞き入れられなかった。それがきっかけでつながりが作れたらと思ったが、そうはならなかった。当初は共通点を探していたが、これ以上の失望を避けるため、現在はやめている。

ドナーきょうだいと会っていない。自分はかなり遅れてやってきて、誰も自分に興味を示していないようだった。同じ州に住んでいる人はいない。ミーティングを組織する前に、お互いに会うことに興味があることが必要だが、自分が投稿しても、誰も反応してくれない。

弟はあまり興味がないようだ。彼の対処法はこの問題と距離を置くことだ。彼の贖罪は、パートナーの子供たちのために、良い養父になることだ。彼はこのようにして父親の空白を克服している。



**Q Sullivanさんにとって、遺伝的つながりとは何でしょうか？ それは意味がありますか、それとも幻想ですか。**

遺伝的つながりは意味があると考えて We Are Donor Conceived の Facebook ページに参加した。そこでは、共通の特徴や素質などについて、ドナーきょうだいの間で多くのミーティングがある。自分のドナーきょうだいの Facebook グループを通じて、自分が、がんとうつ病の体質であることを知った。これは、ドナー姉妹がグループに参加し、ある医療情報を自発的に提供した後のことで、それまで聞かされていたこととはまったく異なるものだった。

ドナーを探す前に、ドナーについてほとんど情報を持っていなかった。母がどの程度の情報を提供されたかは知らないが、自分の子供時代に失われたものもあるらしい。

自分は、「育てる」ことだけを重視するのは近視眼的であり、遺伝も重要だと考えている。

**Q. 他の donor conceived と交流しましたか？ どう思いましたか？**

フェイスブック以外で、広範な DC コミュニティとの関わりをあまり求めてはいない。今まで、日常生活の中で、他に2人のドナー出生者と話をしたことがあるが、2人とも自分より良い経験をしている。

ライフステージによっては、DC について楽しい経験をして、問題ないと思っているかもしれない（特に社会的な父親がいなかった場合）。一方では、それを重荷や肩身の狭い思いのように抱えている人もいる。この両極端な人たちとの関わり方に悩んでいる。ドナー出生者のコミ

ュニティにはユーモアがあまりなく、つながりを持つのが難しいと感じている。

**Q. オーストラリアやイギリスのように、ドナーの情報について公的機関が管理するシステムを米国にも作るのが望ましいと思いますか？**

そのようなシステムが望ましいと考えている。但しその際、ドナー出生者の代表が運営に関わる必要がある。アメリカの DC 第三者登録は、出生者の親が運営する非営利団体だが、この人物がドナー出生者からの批判を封じていることに対して批判が広がっている。

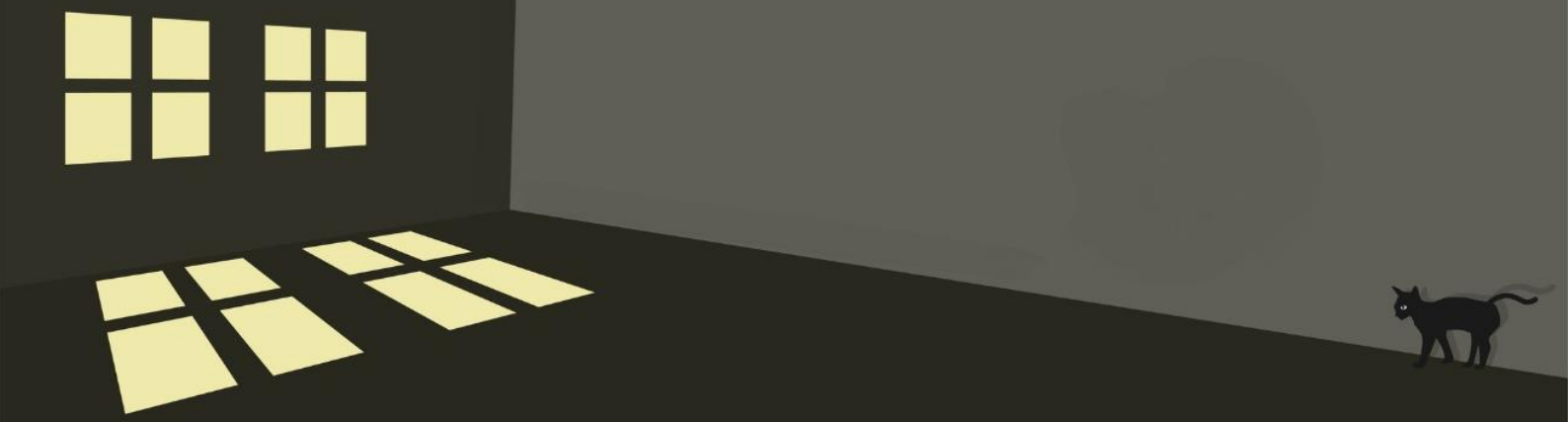
親が主導権を握っている場合、ドナー出生者はその親を傷つけないという思いから、率直な意見が出にくくなる。

**Q. you tube でこのことについて話すことで、何を期待しますか？ 何かコメントはきましたか？**

自分は「生まれつき共有しすぎる性格」だが、YouTube は何でも投稿できる場を提供してくれた。不妊治療業界の広告に対抗するために、異なる見解を投稿したかった。YouTube で公開されている情報の多くは、依頼親からの情報であり、それは自己強化になりがち。特に選択的シングル親に対しては、インスピレーションを与えてくれたなどと感謝するコメントが多い。自分は、ドナー出生者としての思いを伝えて、議論を広げたいと思った。

自分のビデオには、あまりコメントが寄せられていない。精子提供を推進するクライオバンクの広告に対するコメントに自分の動画をリンクしている。「愛で十分ではないか」「なぜ不妊であることを悪く思うように仕向けるのか」といった擁護的な意見が多く寄せられている。





これは自分が意図したことではないが、このような人々は、子供のためだと言いながら何かを犠牲にしていることをすでに知っているのではないかと感じている。

#### Q. donor conception で親になろうとする人に対して、どんなメッセージがありますか？

- 1) ドナーによる妊娠出産が可能だからといって、そうすべき、あるいはそれが子孫の最善の利益になるとは限らない。このような方法で他人を妊娠させる能力は、存在に対する権利意識を育み、子育てにダメージを与える可能性がある。誰かを「購入」する能力は、健全な愛着を育むことはできないと考えている。
- 2) 不妊で辛い思いをし、養子縁組を希望する人たちをサポートすることがより重要だと考えている。それでも、ドナーを使って妊娠出産することを主張する人がいるとすれば、最初から子供に対して完全に透明であるべき。年齢に応じた方法で情報を提供すれば、子供たちが対処できることはたくさんある。子供を真実から遠ざけようとするのは、親の不快感や潜在的な影響への恐れからくるものだ。最初から情報を共有することで、その情報をより良く受け取ることができるし、隠蔽しようとする試みは、後々まで転移して、子供を傷つけることになる。
- 3) 完全な匿名性と完全なプライバシー、そしてそれを隠せるという前提は（特にアメリカでは）現在、ばかばかしいものだ。誰でもこの情報を偶然に見つけることができる。偶然に知る方法はいくらでもある。DNA 検査へのアクセスは、それを生涯秘密にしておくことが不可能であることを意味する。

- 4) レジストリシステムの運営に、ドナー出生者の代表がもっと必要である。
- 5) 匿名提供や匿名ドナーを使った妊娠出産に対してモラトリアムが必要である。

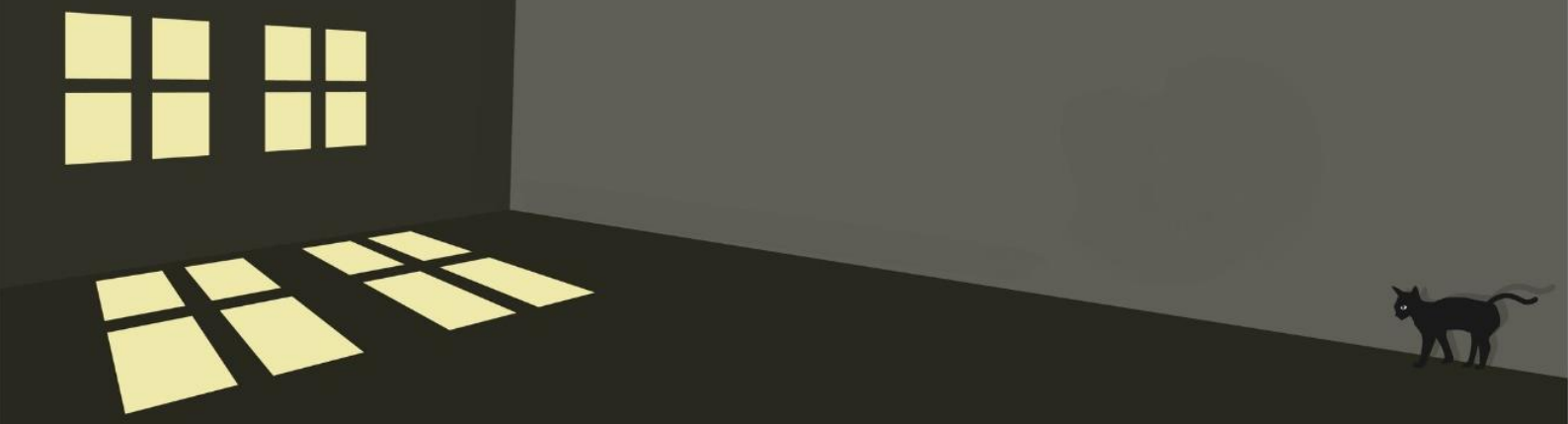
#### Q.その他、コメントなど。

夫は、自分がドナー出生者であることや、それに関連する歴史を十分承知している。夫とそれについて話し、家族が壊れてしまった悲しみを分かち合っている。しかし、彼は自分ほどそのことにこだわってはいない。

ドナー出生者であることは、自分の子供を持ちたくないという願望に強く影響を及ぼしている。自分が納得できないこの技術なしに自分は存在しえなかったとはいえ、自分の存在をある面で自然からの「借り物」であると感じている。子孫を残すことは、何らかの形でこの過ちをさらに深めることになると思っている。幼少期に多くのトラウマを抱えており、この技術は複雑すぎて、子供にダメージを与えるリスクがある。

不妊治療業界に対しては批判的だ。DC について、幅広い関係者や意見を取り入れたこのような研究が行われることを嬉しく思っている。

(2022年11月)



### **Ms. Faith Sullivan**

米国コロラド州のコロラドスプリングスに在住。家族は夫とペットたち。精子提供により生まれたことを10歳の時に知る。現在は、不妊治療業界に対する出生者の側から見た議論を広げたいとYouTube等で自身のドナー出生者としての思いを発信している。

YouTube

[A Donor Conceived Person's Experience with the Fertility Industry](#)

Instagram

[HausfraudHomestead\(@hausfraud\\_homestead\) • Instagram](#)

Facebook

[Hausfraud Homestead | Facebook](#)